

平成25年 3月14日

天童市立長岡小学校
保護者の皆様

天童市立長岡小学校
校長 大泉 徹

「本校の教育活動に関する調査」の集計結果について

春暖の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解ご協力をいただき深く感謝申し上げます。

さて、この調査につきましては12月にお願いいたしましたが、その集計結果並びに今後の対応がまとまりました。集計結果は、保護者の皆様から回答率95%の協力をいただいてまとめたものです。また、今後の対応については、その結果を受けて、校内で検討したものをもとに、先日の学校評議員会でさらにご協議いただきました。

つきましては、下記の通り資料を配付いたしますので、ご覧いただきたいと存じます。皆様のご協力に深く感謝いたします。

記

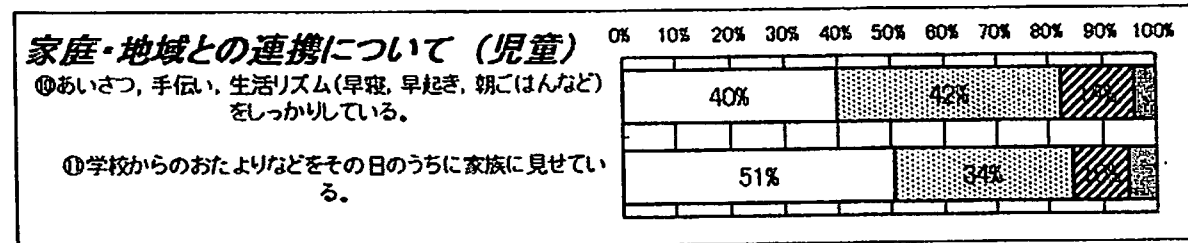
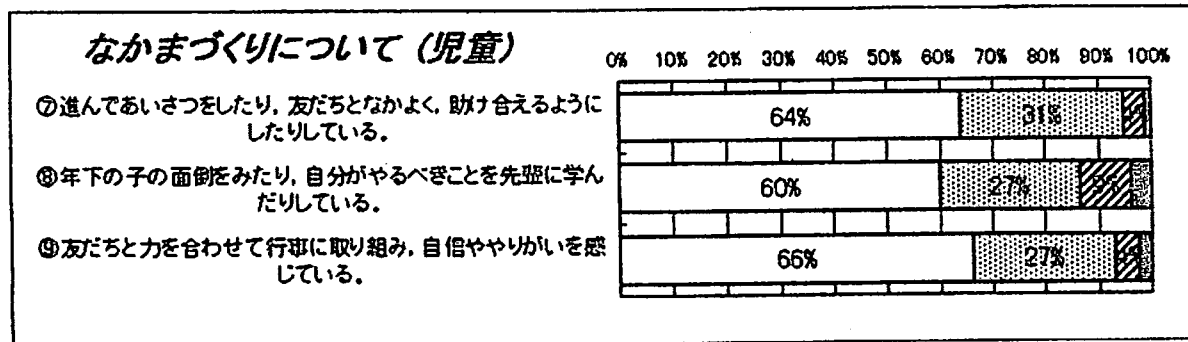
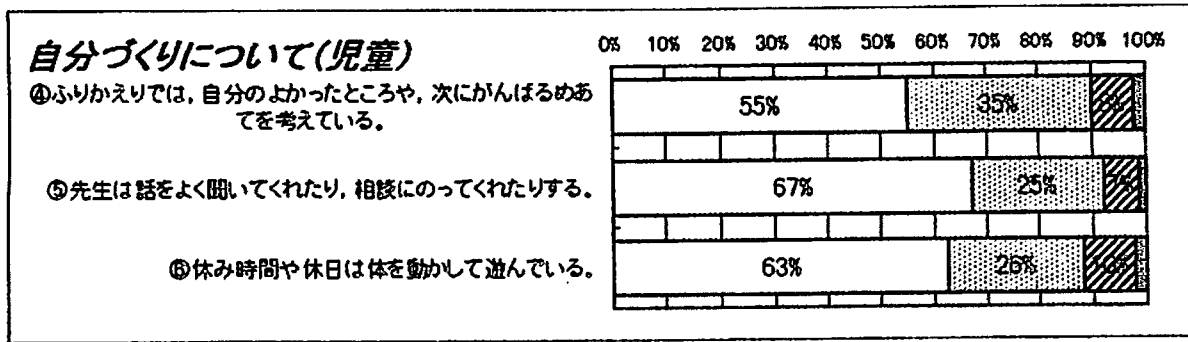
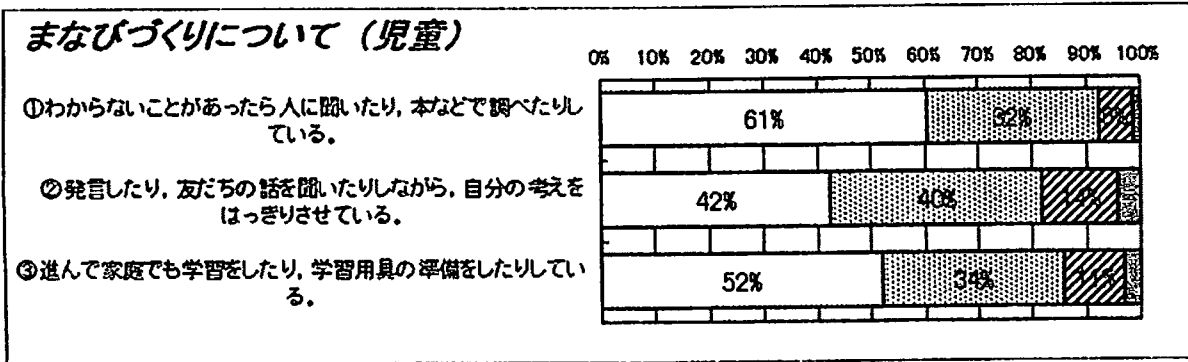
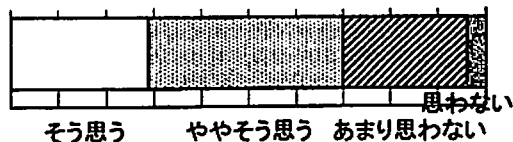
【配付資料】

- 1 児童・保護者集計結果（グラフ）
- 2 児童と保護者の意識（A・Bの合計比較表）
- 3 集計結果をうけて

【本校の教育活動に関する調査】

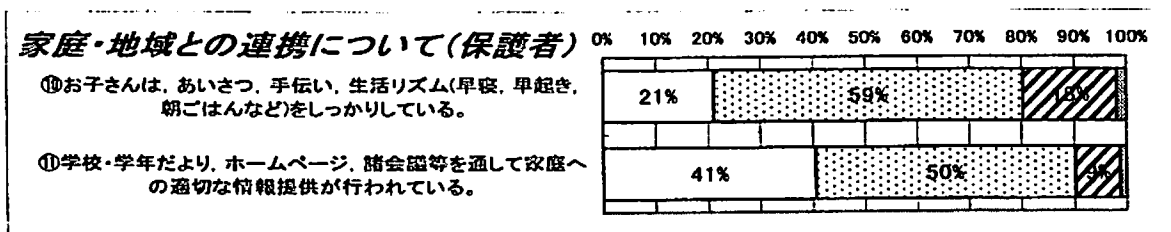
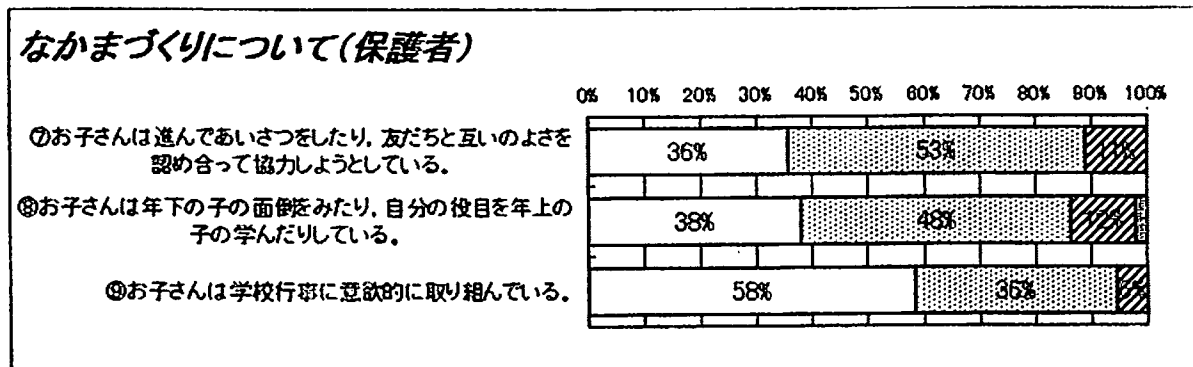
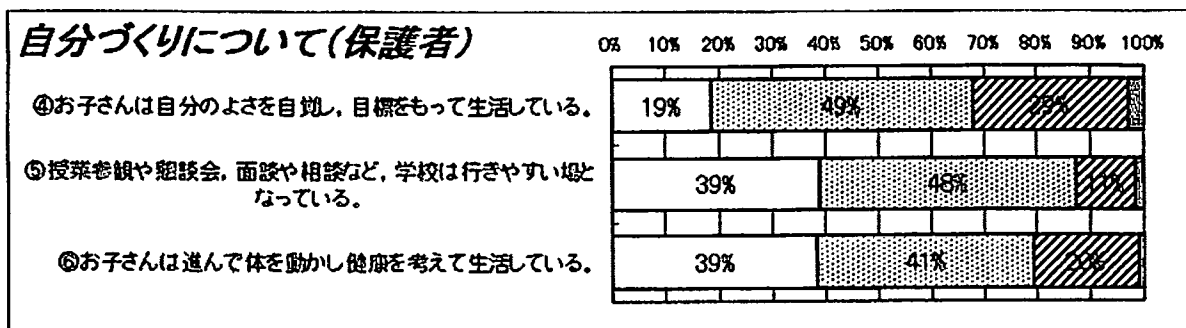
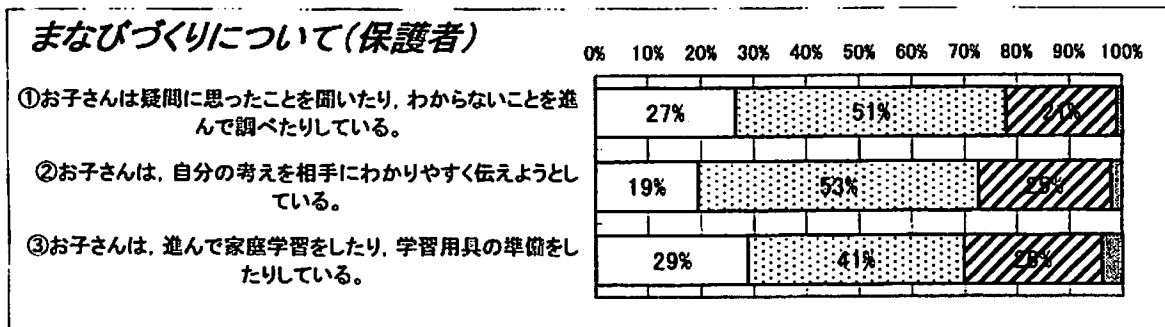
児童集計結果

回答率 97%



保護者集計結果

回答率 95%



【本校の教育活動に関する調査】

児童と保護者の意識

| No. | 評 価 項 目 | A Bの% | |
|--------------|---|-------|-----|
| | | 児童 | 保護者 |
| 【まなびづくりについて】 | | | |
| ① | わからないことがあったら人に聞いたり、本などで調べたりしている。 | 93% | 78% |
| ② | 発言したり、友だちの話を聞いたりしながら、自分の考えをはっきりさせている。 | 82% | 72% |
| ③ | 進んで家庭でも学習したり、学習用具の準備をしたりしている。 | 86% | 70% |
| 【自分づくりについて】 | | | |
| ④ | ふりかえりでは、自分のよかったところや、次がんばるめあてを考えている。 | 90% | 68% |
| ⑤ | 先生は話をよく聞いてくれたり、相談にのってくれたりする。 | 92% | 87% |
| ⑥ | 休み時間や休日は体を動かして遊んでいる。 | 88% | 80% |
| 【なかまづくりについて】 | | | |
| ⑦ | 進んであいさつしたり、友だちとなかよく、助け合えるようにしたりしている。 | 95% | 89% |
| ⑧ | 年下の子の面倒をみたり、自分がやるべきことを先輩に学んだりしている。 | 87% | 86% |
| ⑨ | 友だちと力を合わせて行事に取り組み、自信ややりがいを感じている。 | 93% | 94% |
| 【家庭との連携について】 | | | |
| ⑩ | あいさつ、手伝い、生活リズム(早ね、早起き、朝ごはんなど)をしっかりしている。 | 82% | 80% |
| ⑪ | 学校からのおたよりなどをその日のうちに家族に見せている。 | 85% | 91% |

「本校の教育活動に関する調査」の集計結果をうけて

今年度の調査は、学校運営の4つの柱ごとに調査内容を整理し、児童と保護者の皆さんに同じ項目を4段階（A～D）で評価していただきました。

集計結果を見ると、児童は11項目全てで、A（あてはまる）B（ややあてはまる）を合わせた割合が80%以上をしめ、保護者は7項目でABの割合が80%以上をしめていました。ABが70%を上回れなかった項目については、次のようにして改善に努めていきたいと考えています。

1 まなびづくりについて

児童の評価項目②「発言したり、友だちの話を聞いたりしながら、自分の考えをはっきりさせている」の結果は、ABが82%（A42%、B40%）でした。これは、児童の集計結果で2つある85%に満たなかった項目の1つです。この項目の保護者の集計結果は、72%（A19%、B53%）で、3つある75%に満たなかった項目の1つでした。また、保護者の評価項目③「お子さんは進んで家庭学習をしたり、学習用具の準備をしたりしている」の結果は、ABが70%（A29%、B41%）でした。これらのことから、「相互の考えを聞き合い、課題解決を図る」ことや、「子どもにとって興味深く、わかりやすくやりがいのある教材や課題を準備する」などの授業改善が課題であると考えています。どの学級も、一人一人が思考し、精一杯表現し合いながら、確かな学力を育てる授業を積み重ねていきたいと思ひます。

2 自分づくりについて

評価項目④については、児童と保護者の評価内容に違いがありました。そのため、結果にも、児童と保護者間で最も大きな開きが出ました。児童の90%（A55%、B35%）が「ふりかえりでは、自分のよかったところや、次にがんばるめあてを考えている」と思っていました。それに対して、「お子さんは、自分のよさを自覚し、目標をもって生活している」と見ている保護者は68%（A19%、B49%）で、全項目で唯一70%を下回る結果でした。このことから、教師が率先して一人一人の思いを共感的に受け止め、児童の自己肯定感をさらに高めていく必要があると考えています。どの学級も、「めあてをもって取り組み、自らをふり返る」ことを日常的に行い、一人一人が自分の特徴に気づき、よいところを伸ばすことができるよう、認め励ましていきます。

3 なかまづくりについて

今回の調査結果でABの割合が最も高かったのが、このなかまづくりに関するものでした。児童は、評価項目⑦「進んであいさつしたり、友達となかよく助け合えるようにしたりしている」では、95%（A64%、B31%）。保護者は、評価項目⑨「お子さんは学校行事に意欲的に取り組んでいる」で94%（A58%、B36%）でした。ただし、評価項目⑧「年下の子の面倒をみたり、自分がやるべきことを先輩に学んだりしている」については、年々向上が見られるものの児童・保護者ともに80%台でしたので、今後もさらに、異学年交流や異年齢集団の活動を様々な場面に取り入れていきたいと考えています。

4 家庭との連携について

評価項目⑩の「あいさつ、手伝い、生活リズム（早ね、早起き、朝ごはん）をしっかりとっている」についてのABの割合は、児童が82%、保護者が80%という結果でした。特に、児童の中ではAが40%で、最も低率の項目でした。「より正確な実態把握に努め、向上が図られるよう、学校と家庭が連携し、具体的に児童たちに働きかけることが必要である」と学校評議員会でも話題になりました。学校と家庭との連携を深めるポイントとして活かしてまいりたいと考えています。